



イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 650 回 ゲスの勘繰り「ノーベル賞」

2015.10.11

ノーベル賞の受賞者の発表は毎年 10 月頃に順次行なわれ、ノーベルの命日である 12 月 10 日に授賞式が催される。今年もその時が来た。

今日(10/10)現在、生理学・医学賞が北里大学の**大村智**特別栄誉教授、そして物理学賞では、東京大宇宙線研究所の**梶田隆章**教授が受賞、連日の日本人の受賞に、国内外から賞賛と驚きの声が多く寄せられている。

これで日本人の受賞者はアメリカに国籍を動かしている 2 人を入れて **24 名**となった。

21 世紀以降、自然科学賞部門の受賞者国別で、日本は米国に続いて**世界第 2 位**を誇っている。

なぜこれほど日本人受賞者が多いのか…？

「スポーツの祭典〇〇ピックとか、××遺産ではないけれど、支援・拠出金の額がものをいい…」

もっばら根付いた捻くれ根性ゆえ、もしや「**ノーベル賞、おまえもか！**」とばかり、色々調べてみた。

結論から言えば、ノーベル賞の運営は「**ノーベル財団**」がこれに当り、1900 年「ノーベル財団規約」が定められ、厳格な管理のうちに運営されている。

ダイナマイトの発明で巨額の富を得た**アルフレッド・ノーベル**の遺産の 90 パーセント(遺産総額、日本円にして約 207 億円)が基金となり、現在もその運用利子と、それを株式や不動産に運用した運用益を、賞金や選考費用に充てている。

寄付の申し出はたくさんあるが、政府や公的機関からの寄付は一切受けず、民間からの寄付も厳選、支援・寄付金等を、賞の選考に全く影響させない仕組みになっているとのことだった。

世の中斜めから見た小生の「**ゲスの勘繰り**」は、木っ端微塵に打ち砕かれた。

お詫びを兼ねて、ここでノーベル賞の、凄い蘊蓄である。

2013 年の年次報告書によると、ノーベル財団の職員はたったの 11 人。

少数精鋭のチームによって、ノーベル賞の莫大な資金は運営されている。

一般的に「ノーベル賞 6 部門」といえば、「物理学賞」「化学賞」「生理学・医学賞」「文学賞」「平和賞」「経済学賞」を指す。しかし実は「経済学賞」の正式名称は「**アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞**」。1968 年にスウェーデン国立銀行によって作られたもので、ノーベルの遺言によって創設されていないため、厳密にはノーベル賞ではなく、これだけは日本でも課税の対象である。ノーベル賞の授賞式はスウェーデンのストックホルムで行われるが、ノーベルの遺言により平和賞の授与式だけはノルウェーで行われている。理由は明らかにされていない。

受賞者は記念メダルと賞金。賞金額は、「ノーベル財団」の資産運用の成果によって決まる変動制。運用益から元金と諸経費分を確保した残り 75%が賞金に充てられている。

今回の梶田隆章さんは、マクドナルド氏と共同受賞なので、1/2 の 500 万クローナ(約 7,280 万円)。そして、大村智さんは、キャンベル氏と共同の開発、もう一人の生理学・医学賞・中国の屠呦呦(トウ・ヨウヨウ)氏は単独なので、大村さんは 250 万クローナ(約 3,640 万円)という計算になる。

ノーベル財団、総資産は今の相場で 350 億円くらいとなる。リーマンショック前は 500 億円くらいあったそうだが、株や債券といった金融資産の運用で、リーマンショック以降、かなり苦しい状況のようだ。(蛇足だが…「**京都賞**」を出している稲盛財団、総資産は 600 億円と言われている)